

行うこととなりました。一般的に赤道は、市道認定されている他の未舗装路線と比較すると、利用者が少なく優先順位が低いため、早急に舗装等の整備をすることは困難と考えていますが、危険箇所等は今後、整備手法等も含めて検討します。

◆排水問題について

問 山田台側から排水されていく上砂地先の流末排水路の整備について。

市長 現在、上砂地先を含む周辺水路の整備は、その下流となる砂地区水路の改修工事を、年次計画に沿って進めています。上砂地区の水路整備は、上流部を部分的に改修すると、砂地区までの間に、今以上の負荷がかかることが予想されるので、引き続き下流からの整備を進めていくとともに、上流地区は、既存水路の補修及び維持管理に努めながら、水路の流下能力を維持する対策を講じます。

問 青道の整備について。
市長 青道も譲与が終了し、その機能管理及び財産管理は市が行うことになり、現況水路の形態をなしている箇所は、引き続き維持管理

に努めるとともに、水路として十分機能していないような箇所は、周辺や流末の状況等を考慮し、出来る限り水路として活かす方法を検討します。

◆二州第一保育園の改築について

問 いつ頃から工事が始まり、いつ頃完成するのか。また、設計及び建物の配置は。

市長 園舎の本体工事は本年8月頃から開始、来年2月末の完成を予定し、その後既存園舎の解体及び外構工事を行い、3月中旬には



▲新園舎完成がまたれる二州第一保育園

全ての工事が完成し、卒園式は新園舎で行います。

園舎は、木造平屋建て保育室6室の他、職員室、厨房等、延べ床面積692.28㎡で、全体の定員数は、現行の70名と同様ですが、3才未満児室の増室及び一時保育室を新たに設けることにより、子育て支援のサポート体制の強化・待機児童の解消を図ります。

位置は、現遊戯室を解体し、解体した跡地を含め、南西側に新園舎を建築し、グラウンドの広さは現状より一回り大きくなり、駐車場は、園敷地内の北東側に17台分を整備します。

◆全小学校区に児童クラブの設置について

問 二州、笹引小学校区の児童クラブ設置の急務を。

市長 児童クラブは現在市内4カ所で開催、運営していますが、今年度は交進小学校区に、9月開所に向けてその準備を進めています。

二州、笹引の未設置学区は、今後も設置に向け、計画的に整備し、学童保育の充実を図ります。

個人
質問 横田 義和

◆総合計画について

問 地域活性型インターチェンジをどの様に捉え、総合計画に取り入れるのか。

市長 本年4月28日、国土交通省から日本道路公団に対し、東関東自動車道(仮称)酒々井インターチェンジ建設の施行命令が出て、設置に向けた大きな一歩を踏み出しました。

県の説明によると、インターチェンジからの接続道路は、当面インターチェンジ北側の国道296号へつながるのみで、県道富里酒々井線への接続は計画していませんが、この道路形態では本市にとって極めて便益の低い状況なので、関係する「東関東自動車道酒々井インターチェンジ設置促進期成同盟」の構成自治体と共に、県に対し県道富里酒々井線への接続実現に向け、積極的に働きかけをし、今後の総合計画策定会議の中で、その方向性を検討します。

問 次期総合計画の中で、北部地域における施策の方向性は。

市長 総合計画構想図では、北部地域は、産業の拠点と位置づけをし、東関東自動車道への近接性を活かした流通、製造、研究開発機能等の招致を図ることとしています。

この地域は、概ね10年間で開発が活発に行われ活気のある地域なので、引き続きこの基調を維持しながら、スイカ生産地域でもあるので、このスイカを中心に豊富な農産物を生かした取り組みも検討します。

◆鳥獣被害について

問 カラス等による農作物への被害があるが、市としての様に対処しているのか。

市長 現在、市で行っている有害鳥獣対策は、佐倉猟友会八街支部に委託をし狩猟を行っています。カラスの捕獲は、4月に6日間実施し、例年より多くの捕獲があり一定の効果があったと考えており、あと数回猟銃によるカラスの捕獲を実施する予定ですので、猟友会と協議しながら適正に進めます。

◆防犯問題について

問 防犯パトロールが地域

によっては実施されているが、全市的な対応を早急に望むがどうか。

市長 全国的に住民による地域レベルでのパトロール活動が各地で活発化しており、本市でも一部の地域で自主的なパトロール活動が行われていますが、全市的な防犯力の向上に向けて、パトロール活動への支援等も含め、具体的な方法や効果、安全面などについて、警察や区長会などの関係機関と十分に協議、調整を図りながら、対応を検討します。

◆教育問題について

問 児童・生徒の交通安全指導は、どのように実施されているのか。

教育長 交通安全指導は、市内の道路状況や、これまでの交通事故の実態などから、大変重要な課題であると認識しており、小・中学校では、安全教育の一環として登下校における安全な歩行の仕方、安全な自転車乗りの仕方等について、年間を通じて繰り返し指導し、特に学年始めは、小学校では集団登校、中学校では自転車乗りの方に重点をおい